

モンゴル高専生 宮城の企業視察

仙台高専(仙台市)は27日〜10月3日の日程で、モンゴルの高専生15人を招いた交流プログラムを実施している。講義や演習といった座学に加え、宮城県内の地元企業を回ってものづくりの現場を視察。日本での技術習得を希望する高専生の編入学や、優秀な人材を求める地元企業への就職につながる狙いがある。



日本のものづくりの現場を興味深そうに視察したモンゴルの高専生=28日、宮城県美里町のキョーユー

仙台高専が交流プログラム 編入学、県内での就職狙う

新型コロナウイルス禍で交流プログラムの実施は3年ぶり。教師3人を含む高専3校の18人が参加し、28日は仙台高専が連携する官民組織「未来産業創造おおさき」(大崎市)の案内で3社を視察した。

精密機械加工のキョーユー(美里町)は、モンゴル出身で仙台高専専攻科を卒業したバートルフー・バヤルバートルさん(23)が今春から働く。畑中得実社長は「バヤルさんは故郷で起業する大きな夢を持って頑張っている。皆さんも宮城の地でキャリアアップしてほしい」と呼びかけた。

高専生は自動車や航空宇宙、医療などの分野で大企業の生産活動を支える同社の工場を見学。働くのに必要な専門知識や、インターンシップが可能かどうかといった質問も出た。新モンゴル学園高専5年のバダルチ・オトゴンデムベレルさん(19)は「働きやすそうな環境。自分も大きな機械を使って働いてみたい」と意

今春からキョーユーで働くバヤルさん(左)も後輩たちを激励した=28日

先輩・バヤルさんも激励

バヤルさんもモンゴルの高専在学中の2018年に同社を視察した縁が就職に結び付いた。「自分も当時は日本語ができなかった。これから頑張れば来年の編入試験に合格できる」とエールを送る。

プログラムは科学技術振興機構の国際青少年サイエンス交流事業の一環。この日は大崎市の共伸プラスチック宮城工場、明治合成も視察した。仙台高専の小林仁教授は「バヤルさんの存在を礎に、モンゴルの若者を受け入れるネットワークが地元の産業に広がってほしい」と期待する。

